

# 呉高専と連携協定締結

## 将来を担う人材育成支援

会本部  
士本  
術中  
国

【呉】(公社)日本技術士会中国本部(大田一夫 本部長)は26日、呉工業高等専門学校と連携協力に関する協定を締結した。「21世紀の中核とな

る技術者の人材育成を支援し、地域社会の発展に貢献することを目指す」としており、中国本部にとっても同校から講習会などの講師を招くなど、双方



協定書を交わす大田本部長(左)と篠崎校長

同時に中国本部岡山県支部と津山高専、14年に四国本部と香川高専、今年2月に中国本部山口県支部と徳山高専が締結しており、今回で5度目、中国本部としては初となる。呉高専であった調印式では、中国本部から大田本部長をはじめ、外山涼一副本部長、乗安直人事務局長ら6人、同校からは篠崎賢二校長や神田佑亮環境都市工学科教授ら5人が列席のもと、協定

書の取り交わしを行った。

大田本部長は挨拶の中でこれまでの取り組みを紹介するとともに、「両者が連携することで、われわれの実務経験と先生方の最新の専門知識、並びにドローン等の最新調査機器の活用により、より効果的・効率的な支援活動が可能になる」と期待を寄せた。

の459人が広島県在住。呉高専とは、大田本部長を含む2人が環境都市工学科の非常勤講師を務めているほか、17年には同校のOBらでつくる「九嶺会」を立ち上げるなど、これまでも積極的な交流が図られてきたが、昨年7月の西日本豪雨をきっかけとし、今回の協定を正式に結びことに至った。

篠崎校長は「優秀なエンジニアの方々を本校に派遣していただき、学生たちに実践教育をしていただける機会ができたことは大変ありがたい。両者がウィンウィンの関係になることを願っている」と述べた。

具体的には▽呉高専の授業への技術士派遣、中国本部主催の講演会の講師としての教員派遣▽小中学生に対する理科教室の開催▽市民への防災教育、災害被災地への復興支援活動▽呉高専の研究シーズと企業を二ーズを結び付けることによる新技術・新産業の創出といった取り組みを想定している。

中国本部には現在、正会員(技術士)760人と準会員(修得技術者)159人を合わせて919人が在籍し、その半数